

## 単元名 中世の日本と世界

配当時間 14時間

- 単元の目標 (1) 中世の日本の大きな流れについて、世界の歴史を背景に、時代の特徴を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。
- (2) 中世の日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などについて、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりすることができる。
- (3) 中世の日本に関わる諸事象について、そこでみられる課題を主体的に追究しようとする。

## 標準的な展開例

10220302\_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 古代と中世の絵を見比べたり、中世の日本と世界の動きを大観したりして、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>★中世とはどのような時代なのだろう。</p> <p>○古代と中世の絵を見比べる。</p> <p>○地図や年表を見て、中世の時代の流れや10～12世紀の日本と世界の様子を大観する。</p> <p>・中世の日本では、武士が登場し、くらしの様子が変化している。また、10～12世紀の世界地図を見ると、宋やフランスなど、新しい国がある。</p> <p>○単元の学習問題をつかむ。</p> <p>●「中世」の日本は、どのような新しい政治のしくみをつくりあげようとしたのだろう。</p> <p>○武士が勢力を拡大する過程の概略を知り、学習計画を立てる。</p> <p>2 武士のおこりと成長について調べる。</p> <p>★武士はどのようにしておこったのだろう。</p> <p>○武士のおこりについて調べたり、説明したりする。</p> <p>・地方で武装した者や都で軍事を専門とした者が、つながりをもち、武士団としてまとまっていった。</p> <p>■武士はどのように力をつけていったのだろう。</p> <p>○東北地方の発展について調べる。</p> <p>・奥州藤原氏</p> <p>3 院政と平氏の政治について調べる。</p> <p>★平氏は、どのような政治を行おうとしたのだろう。</p> <p>○院政について調べる。</p> <p>○平氏の政治について調べる。</p> <p>・平氏の政治は、武力で争いを鎮める中で中央の政治に関わっていくという武士的な面と、朝廷の力を利用して政治を行おうとする貴族的な面があった。</p> <p>○平氏が短期間で政権を手に入れることができた要因について話し合ったり、自分の考えをまとめたりする。</p> <p>○学習を振り返り、小単元の学習のまとめをする。</p> <p>4 鎌倉幕府の政治について調べる。</p> <p>★源頼朝がつくった政治のしくみには、どのような特徴があるのだろう。</p> <p>○源氏が政権を握る過程を調べる。</p> <p>■鎌倉幕府の成立は、社会をどのように変えたのだろう。</p> <p>○鎌倉幕府の主従関係やしくみについて調べたり、鎌倉幕府が武士に支持された理由を考えたりする。</p> <p>・御恩と奉公                      ・侍所</p> <p>・政所                                ・問注所</p> <p>・守護                                ・地頭</p> <p>○執権政治の始まりと執権政治について調べる。</p>	<p>・教P. 64～P. 67</p> <p>・くらしの変化を示す資料の比較を通して、当時の中世の特徴をイメージさせ、第3編の学習問題を明らかにする。</p> <p>・教P. 64～P. 65の資料を用い、貴族と武士の屋敷を比較し、中世の日本に興味をもたせる。</p> <p>・教P. 66～P. 67の資料を用い、年表では中世の日本と世界の動きを時系列で捉えさせる。</p> <p>・教P. 38の地図を用い、西アジアやヨーロッパがどのように変わったかを読み取らせる。</p> <p>【評】中世の日本と世界について調べたり、気付いたことや考えたことなどを表現したりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教P. 66の年表を用い、人物を中心に、小学校の学習を想起させる。</p> <p>・教P. 68～P. 69</p> <p>・武士と皇族や貴族との関係、各地域で起こった出来事に着目して追究させる。（つながり）</p> <p>・教P. 68の資料を用い、地方の武士の役割や武士団のしくみを理解させる。</p> <p>【評】武士のおこりについて、調べて分かったことを既習の内容と関連付けて考えたり、説明したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教P. 69の年表を用い、貴族と武士の動きを関連付けて捉えさせる。</p> <p>・教P. 70～P. 71</p> <p>・平氏の政治は、それまでの貴族の政治のどのような面を引き継いでいるかに着目して追究させる。（推移）</p> <p>・教P. 70の資料を用い、摂関政治との違いを理解させる。</p> <p>・一族が官職を独占するなど、官職を大切にしたこと、天皇と外戚関係を結び摂関家と同様の政治を進めたことを捉えさせる。</p> <p>【評】平氏の政治について、貴族的な面と武士的な面から調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教P. 72～P. 73</p> <p>・源頼朝と御家人との関係に着目して追究させる。（つながり）</p> <p>・鎌倉幕府を開いた源頼朝の父義朝は、知多半島にゆかりがあることに触れる。</p> <p>・土地を仲立ちとした関係を捉えさせる。</p> <p>・承久の乱後、執権政治の体制が強化されたこ</p>

- 5 古代から中世への変化を調べる。  
★承久の乱を通して、古代から中世への変化を考えよう。  
○承久の乱について調べる。
- 承久の乱後の鎌倉幕府の政策について調べる。
- 古代から中世への時代の変化を考えたり、説明したりする。
- 6 鎌倉時代の人々の暮らしについて調べる。  
○定期市の資料を見て、気付いたことを発表し合う。
- ★鎌倉時代の人々はどのように生活し、社会はどのように発展したのだろう。  
○京都と鎌倉の様子について調べる。
- 武士と農民の暮らしの変化について調べる。
- 農業と商業の発達について調べる。
- 7 鎌倉時代の文化と仏教について調べる。  
○東大寺南大門の金剛力士像を見て、気付いたことを発表し合う。  
★鎌倉時代の文化は、古代の文化とどのようなところが異なっているのだろう。  
○鎌倉時代の文化の特徴について調べる。  
・古代の文化とは異なり、天皇や貴族を中心とした文化ではなく、武士の気風を受けた素朴さや力強さがみられるものだった。
- 鎌倉時代の仏教について調べる。
- 8 元の襲来が鎌倉幕府に与えた影響について調べる。  
★なぜ、2度も元軍をしりぞけたのに、鎌倉幕府はおとろえたのだろう。
- モンゴル帝国と元について調べる。
- 元寇の経過と結果について調べる。
- 幕府が衰えた理由を説明する。  
・外国との戦いでは、土地を得ることができず、御家人に十分な恩賞を与えることができなかったことから主従関係が揺らいだ。
- 学習を振り返り、小単元の学習のまとめをする。
- 9 南北朝の動乱と室町幕府による政治について調べる。  
★なぜ、室町幕府は京都に置かれたのだろう。
- 建武の新政について調べる。
- 南北朝の動乱について調べる。
- 足利義満の業績について調べる。
- 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。  
■民衆の成長によって社会や文化はどのように変わったのだろう。

- とを確認させる。  
・教P. 74～P. 75
- ・教P. 74の資料を用い、承久の乱の際、西日本では後鳥羽上皇方についての守護や武士が多かったことに気付かせる。
- ・教P. 75の白地図を用い、承久の乱後に新たな守護や地頭が置かれた国を捉えさせた上で、幕府のねらいを考えさせる。
- ・古代の支配のしくみについて、既習事項を踏まえて考えるようにさせる。
- ・教P. 76～P. 77
- ・教P. 76の資料を用い、定期市に集まっている人々の様子や売られているものに注目して考えさせる。
- ・農民と武士や荘園領主との関係に着目して追究させる。(つながり)
- ・朝廷の力は弱まったが、引き続き政治を行っていたことを確認する。
- ・教P. 76の資料を用い、武士は戦いに備えていたことを捉えさせる。
- ・教P. 77の資料を用い、農民は荘園領主と地頭の二重の支配に苦しんでいたことを捉えさせる。
- ・商業の発達につれて、貨幣が広く使用されるようになったことを押さえる。
- ・教P. 78～P. 81
- ・教P. 78の資料を用い、これまでの仏像と比較し、違いを考えさせる。
- ・建築や彫刻の手法、仏教の修行や布教の仕方に着目して追究させる。(比較)
- ・美術では、人間の姿をありのままのまに表そうとする風潮が広まり、写実的で力強い彫刻が作られたことを押さえる。
- 【評】鎌倉時代の文化と古代の文化との違いについて調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・教P. 80の資料を用い、鎌倉仏教の特徴に気付かせる。
- ・鎌倉時代におこった仏教が人々の心の支えとなり、生活に深く根付いていたことを理解させる。
- ・教P. 82～P. 85
- ・教P. 82の年表を用い、13世紀の日本と世界の動きを捉えさせる。
- ・国内の戦いと、外国との戦いの違いに着目して追究させる。(比較)
- ・教P. 82の地図を用い、モンゴル帝国が広大な地域を支配していたことに気付かせる。
- ・文永の役と弘安の役の様子についてまとめさせる。
- ・教P. 83の資料を用い、日本軍が苦戦していることや使われている武器などを捉えさせる。
- ・国内の戦いと異なり、外国との戦いであった元寇後は御家人に恩賞が十分に与えられなかったことを理解させる。
- ・徳政令が出されても、御家人の生活が改善しなかった理由を考えさせる。
- 【評】元寇後に鎌倉幕府が衰えた理由を考えたり、説明したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教P. 88～P. 89
- ・朝廷(天皇)と幕府(武士)の動きに着目して追究させる。(比較)
- ・教P. 88の資料を用い、鎌倉幕府が倒れた経緯をまとめさせる。
- ・教P. 88の年表を用い、朝廷と幕府の動きを捉えさせる。
- ・南北朝の動乱を通じて守護大名が成長したことを理解させる。
- ・室町幕府のしくみについて、鎌倉幕府との共通点や相違点に気付かせる。
- ・室町時代の民衆の成長に触れ、学習の見通し

- 10 室町時代における東アジアの国々との交流について調べる。  
 ★東アジアではどのような交流が行われていたのだろう。  
 ○明との勘合貿易について調べる。
- 朝鮮との関わりと中世の琉球王国、アイヌ民族について調べる。  
 ○琉球の中継貿易と交易の中で育まれた文化について調べる。
- 11 産業の発展による都市と村における人々のくらしの変化について調べる。  
 ★商業や手工業の発展によって、民衆の生活や意識はどのように変わったのだろう。  
 ○商業と手工業について調べる。
- 都市と交通の発達について調べる。
- 手工業や商業が発展すると、なぜ自治意識が高まったのかを考える。
- 正長の土一揆について調べる。
- 12 応仁の乱によって、社会はどのように変化したのかについて調べる。  
 ★応仁の乱により、社会はどのように変化したのだろう。  
 ○応仁の乱について調べる。
- なぜ各地で一揆が起こったり、戦国大名が生まれたりしたかを考える。  
 ・応仁の乱後、幕府の力が衰え、実力で領国を支配する戦国大名や自治を行う民衆が現れた。
- 13 室町文化とその広がりについて調べる。  
 ○金閣と銀閣の資料を見て、気付いたことを発表し合う。  
 ★室町時代の文化には、どのような特色があるのだろう。  
 ○室町時代の文化について調べる。  
 ・応仁の乱により、文化が地方へ広がった。  
 ○民衆文化の高まりについて調べる。  
 ・差別されていた人々も文化の担い手として活躍した。
- 学習を振り返り、小単元の学習のまとめをする。
- 14 学習を振り返り、単元の学習のまとめをする。  
 ★単元の学習問題について、自分の考えをまとめよう。  
 ○学習したことを年表や地図にまとめる。
- 「法」に着目して、中世の特色を調べる。  
 ○学習問題について話し合ったり、自分の考えをまとめたりする。  
 ・中世は武士が政治権力を握り、御家人との主従関係により軍事力を得て、支配を広げようとした。応仁の乱後は、戦国大名や民衆が力をつけ、領国を支配したり、自治を行ったりするようになった。  
 ○江戸時代の絵を見ながら、戦国時代を統一した人物に触れ、次の単元の見通しをもつ。

をもたせる。

・教P. 90～P. 93

- ・各地域、国の輸出入の品目に着目して追究させる。(つながり)
- ・教P. 90の資料を用い、朝貢する形をとって貿易を始めたことや勘合貿易を行った理由を理解させる。

・教P. 92～P. 93の資料を用い、琉球が中継貿易により発展したことや様々な文化が育まれたことを捉えさせる。

・教P. 94～P. 95

- ・鎌倉時代との違いや変化に着目して追究させる。(推移)
- ・道具や職人の技術の向上が人々の生活に与える影響について考えさせる。
- ・産業の発展と交通の発達などを関連付けて理解させる。
- ・産業の発展により、農民の生活が豊かになり村では惣という自治組織が現れるなど、民衆の意識に変化が見られたことに気付かせる。
- ・正長の土一揆以後、各地で一揆が起こったことを確認する。
- ・教P. 96～P. 97

- ・応仁の乱による戦乱と、力をつけた人々の動きに着目して追究させる。(つながり)
- ・応仁の乱が起こった原因や関わった人物をまとめさせ、乱後室町幕府の勢力が弱まったことを確認する。
- ・応仁の乱後、各地で一揆が起こり、民衆が団結を強めて自治組織がつくられるようになったことを理解させる。
- ・守護大名を実力で追い出し、領地を治めた者を戦国大名ということを押さえる
- 【評】 応仁の乱後の社会の変化について考えたり、表現したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教P. 98～P. 101

- ・社会の動きから、どのような影響を受けているかに注目して追究させる。(つながり)
- ・北山文化と東山文化それぞれについて、文化の特色や文化を代表する作品を理解させる。
- ・室町時代の文化が民衆に広まったことや差別されていた人々も文化の担い手になっていたことを捉えさせる。

【評】 室町時代の文化が、応仁の乱や民衆の成長と関わりがあることを調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・教P. 104～P. 105

- ・教P. 104の資料を用い、年表で日本の動きを時系列で捉えさせたり、地図で日本とつながりの深い国を確認させたりする。

【評】 これまでの学習活動を踏まえ、中世の特色について話し合ったり、自分の考えをまとめたりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・教P. 106～P. 107の資料などを用い、近世の学習に関心をもたせる。

【 備 考 】